

SAPPORO 教区 NEWS

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

宣教する共同体

づくりをめざして

地主 敏夫 司教

新しい年を迎えて
札幌教区長 地主 敏夫 司教より
メッセージを頂きました

新しい年を迎えおめでと
うございます。「宣教する
共同体づくりを目指して」
と題して行った講演内容を
ベースに述べさせていただ
き、今年も共に歩んで行こ
うと思います。

まず、宣教する共同体づ
くり当たっては、「私の
教会」という小教区への偏
り過ぎた執着を変えなけれ
ばなりません。「御国が来
ますように…」これが福音
宣教の根本です。

初代教会では、聖霊を受
けてから教会をつくりまし

た。「ペトロの上に教会を
建てる」とイエス様は言わ
れたが、ペトロは叱られた
りほめられたり散々な目に
あっています。イエス様の
過激な言動を心配して諫め
たペトロに、「サタンよ、
退け！」と叱られたイエス

様は、人間的打算や人々の
流れに左右されない真理
を、ペトロを通して教えら
れたのです。聖霊を受けた
ペトロが三千人に説教し洗
礼を授けました。聖堂はな
かったのですが教会はあり
ました。のちに教会堂を大

切にしなさいとは言います
が、教会堂は信仰を育むに
は役立ちますが本質的なも
のではありません。初代教
会の姿は模範ではありません
が、「二つの教会が独善的
にならずペトロのもとにか
たまりなさい。」というこ
とがインターナショナルな
のです。当時も教会の持つ
傷や弱さが沢山あったので
す。

また、十十三紀頃、ミ
サを行えるのは司教のみ
で、司教が巡回してミサを
していました。教会は司教
のいるところで、小教区は
教会ではないのです。教会
という字を大文字で書くこ
ろ（教区）を指しました。
しかし、第二バチカン公
会議で、「神の民が教会」
と定義され、信徒も教会の
活動に参加しなければなら
ない信徒固有の使命もある
とされました。

信徒は、教会から外へ社
会人として生活していくの
で、自分の福音化を通して
他者の福音化を、更に社会
の福音化を図らなければな
りません。キリストを証し
し、社会での旗振り役が信
徒の第一の福音宣教です。

そして、家庭においても宣
教者でなければなりません
。

また、第二バチカン公会
議では、信徒が司祭の職務
に協力することも要請され
ました。この要請は世界的
な司祭・修道者の減少によ
るものです。これは同時に
信徒の働きがどこまで許さ
れるのかという問題に繋が
ります。

信徒は、司祭を助け、司
祭不在の時は集会祭儀の奉
仕、要理の勉強、病者の訪
問、聖体授与、洗礼、葬儀
等がある条件のもとで行う
ようになります。しかし、
司祭の代理者と考えるとはい
けません。あくまで協力
者・協働者です。司祭は、
司教の協力者として権利を
委ねられますが、信徒は司
祭から権利を委ねられるこ
とはないのです。アフリカ
の例ですが、司祭が極端に
少ないことから信徒に多く
の権限を与え、その結果、
信徒の主任司祭までできて
しまいましたので、後に
ローマから禁止されました。
しかし、日本ではこん
なことは起きないと考えて
います。それは、信徒数に
照らして司祭が多いこと
と、小教区が小さいからで

す。欧米では小教区が助祭
を雇える規模なのです。教
区では、信徒の協働者とし
ての養成は、小教区に限定
せず、最低でもブロック単
位がいいと思っています。
そして、信徒が働く時の規
則・制度・養成の在り方が
検討されているところで
す。

また、福音宣教のための
信徒の教会参画について、
小教区主義・司祭中心主義
にとらわれてはいけません
。偏向した小教区観とし
て「私の教会」という意識
が見受けられますが、将来
に目を向けた教会の在り方
を考えて頂きたいです。お
金を持っている教会はロー
ドヒーティングを敷設し、一
方で持つていない教会は教
会維持が破綻しています。
自分のおかれた教会がどう
なのか大局的な見地から考
えなければいけません。

例えば、北見地区は三十
年前からブロック化しよう
という動きがあつて、教会
費はすべて北見教会に集め
られ、年に数回代表が集ま
り教会維持・教会修理につ
いて話し合いました。皆が
必要と思われることをやっ
てきました。地域としてや
りやすかったこともありま

すが網走教会を建てるのも地区として行いました。現在この地区では、今皆が納得して二つの教会を巡回しています。また、函館・旭川でも都市部での機能の一つにまとめようとしています。そして、苫小牧は市内の二つの教会を一つの小教区にしようとしています。釧路では司祭を三名しか置かれないということと、どこに司祭を置くかというところで教会の修理も差し控えている状態にあります。

かと思えます。また、主任司祭が変われば教会の運営が変わるのでもいけません。それを突破していくきっかけがブロック制であると考えます。そこで、宣教師制と司牧体制の立て直し、財務のあり方などを考えていって頂きたいと思います。

鹿児島教区と仙台教区に 新司教誕生

教皇ベネディクト十六世は、ローマ時刻十二月三日正午に、パウロ郡山 健次郎神父（現鹿児島教区司祭）を鹿児島教区に任命。続いて、ローマ時刻十二月十日正午に、マルチノ平賀 徹夫神父（現仙台教区司祭）を、仙台教区司教に任命。



パウロ郡山 健次郎（こおりやま けんじろう）被選司教

略歴
一九四二年八月二十日 鹿児島県瀧郷町生まれ
一九七二年三月二十日

司祭叙階
一九七二年四月 名瀬・聖心教会
一九七四年四月 鴨池教会
一九七八年三月 種子島教会
一九八三年四月 マサチユーセツツ大学語学研修
一九八三年九月 EAP I（フィリピン）研修
一九八四年五月 ザビエル教会
一九八六年四月 吉野教会
一九九四年四月 玉里教会
一九九六年四月 瀬留教会
二〇〇一年四月 志布志教会
二〇〇六年一月二十九日 司教叙階



マルチノ平賀 徹夫（ひらが てつお）被選司教

略歴
一九四五年一月二日 岩手県花巻市生まれ
一九七四年九月16日

司祭叙階
一九七五年四月 一関教会
一九八一年一月 教区事務局長、一関・千厩・西仙台教会協力司祭、塩釜・白石教会主任代行
一九八九年十一月 宮城県南地区担当
一九九四年四月 カトリック新聞社編集長
一九九七年四月 盛岡四ツ谷教会協力司祭
一九九八年四月 大湊教会
二〇〇〇年四月 気仙沼教会
二〇〇一年十月 仙台中央地区担当司祭
二〇〇三年四月 司教総代理、古川教会主任代行
二〇〇四年七月 教区管理者
二〇〇六年三月四日 司教叙階

四旬節を迎えるにあたって

静けさのなかから生まれるものゝ雑踏のなかで日々生きていくわたしたちです。現代文明のなかでわたしたちは

絶えず自分の道を失って奔走しています。飛び交う情報、把握しきれない情報、何が最も大切なものかを見失っている現代人。モノに揺さぶられ本当の価値を見出せない人々。その中で頑なに固まっている自分の弱さを知りながらもそれを認めない自分があることを知らないはずがありません。なぜならば人間は絶えず恐れをもって生きているからです。経済的な恐れ、愛されなくなる恐れ、老いていく恐れ、病に陥る恐れ、死の恐れ、などなどです。恐れは心を腐食させ、創造的ないのちの交わりを狭い所へ追いやってしまうものです。自分が今、どこにいて、どう評価されているか、不安の渦の中で絶えず足掻いていることを感じています。

「イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた」（マルコ一・三七）

イエスは朝の静寂のなかを歩きます。さらに雑踏を避けて人里離れたところへ赴きます。そして御父と静かに対話をはじめます。いつもイエスは自分の魂に御父を迎え入れ、御父と共に歩かれることを願いました。

聖者たちは心の中で叫ぶ神の声を聞き自分の魂のなかに絶えず招き入れていきます。

モーセは荒地に逃れたとき、ホレブの山すなわち人里は離れたところで神の声を耳にしました。燃える柴の中から「今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ」（出エジプト記三・一〇）という「わたしはある。わたしはあるという者だ」（出エジプト三・一四）という神の声を受けとめます。すなわちモーセは自分の心に神を受け入れたのでした。あつてあるもの、愛である神を自分の心に招き入れたのです。だからといって神が人間の外にいるわけではありません。すでに神はあつてあるものですから、私たちはお釈迦さまの掌にいるのと同じです。

マザーテレサは日常生活から離れて黙想をするためにカルカッタからダージリンへ行く汽車に乗りました。そのときです。心の奥底から語りかける神の声を聞いたのです。「すべてを

捨ててスラム街へ行きなさい。そして貧しい人々の中にいるわたしに仕えなさい」と。

マザーはそれから貧しいものの中にいる神の声を聞き逃さないようにいつも自分のところへ招き入れるのでした。それはいつも神が共にいてくださることを感じながらです。

霊性神学者ヘンリ・ナウエンはヨハネ福音書の受難からイエスがこの世に來られた意味について読み取り、現代社会、すなわちこの世界で生きることを「キリスト者として生きること」は、この世に属さずに、この世に生きることで」と語ります。独りきりになる所のない生活、つまり、静かな中心を持たない生活は簡単に破滅的になってしまいます。静けさのなかで祈ること。雑踏のなかで見失ってはいけないこと。心の中で語りかける神の声。だれかがあなたの心の扉をたたいていますよ。

わたしはあなたの心のなかにはいると。ドアをたたいているのです。

またこのころのなかであなたのところに働きかけています。

あるときはキリストがあなたを求めてあなたに働きかけ、あなたを道具として働かせます。……

今年の四旬節は3月1日の灰の水曜日からはじまります(復活祭は4月16日)。

黙想の手引きとなることのできるよう霊性神学者ヘンリ・ナウエンの著書から引用し語ってみました。他に師の著した書を紹介しておきましょう。何かのヒントになれば幸いです。

・「静まりから生まれるもの」(信仰生活についての三つの霊想)

・「イエスとともに歩む」(十字架の道ゆき)

・「みこころへ」(3つの聖週の祈り)

(場崎 洋神父)

久野勉神父様金祝のお祝いが行われる

十一月二十三日(水)に北一条教会において久野神父様の司祭叙階金祝の記念ミサと、隣接するカトリック聖園幼稚園ホールにおいて祝賀会が執り行われた。

当日は、地主司教様を始めとする司祭団と修道者、信徒が一五〇名強参加し、共に神父様の金祝をお祝いし

た。

久野神父様はミサの説教の中で司祭になろうと決めたいきさつを「幼児洗礼で、今まで自分で決めたことがあったかと自分に問いかけ、父親からのカトリックの教えは、当時の学校の教えとは違い信用できると自分なりに考え、これからの人生目標を神様の御旨に任せることに決め今日に至っています。聖霊の助けによって御旨を信じて司祭生活を全うさせて頂ける様かどうか皆さん祈って下さい。」と述べられた。



お祝いの花束を受ける久野神父様

また、地主司教様はご挨拶の中で、久野神父様は教区小神学校の神学生として最後の一人で、小神学校閉鎖の後はヨゼフ修道院に住まれ、光星で神学の勉強をなされたことを紹介し、修道会に習い小神学校に入

られた時を入会と考えれば、久野神父様の聖職者生活は六四年におよぶことを述べられ、これからも健康に留意され司祭生活を務められることを祈っていますと結ばれた。

ミサの後、会場を聖園幼稚園のホールに移し、満員御礼の状態ながら久野神父様を囲み和やかな雰囲気です。祝賀会が行われた。参加した人々は、久野神父様のエレクトーン演奏に耳を傾けたり、親戚の方を始め各教会代表からの挨拶や思い出話に楽しい一時を過ごした。



祝賀会でのエレクトーン演奏

諸活動の報告

ワールドユースデー(WYD)報告会を開催

前号の教区ニュースでもご報告しましたが、昨年8

月に参加して受けた自分たちの感動を、直接皆様にお伝えしたくて、十一月十三日に北一条教会ホールにて報告会を行いました。

北海道からWYDに参加した青年は十一名で、そのうちの八名が報告会を行い、約三十名の方々が足を運んでくださいました。報告会にこんなにも大勢の方々が集まってくれたのがとても嬉しかったです。



映像を使っての報告

報告会はまず日程の説明をした後、プロジェクトを用いて日程の順に写真をスクリーンに写してゆき、

各々の写真にWYD参加者がコメントをする形で行いました。写真はルクセンブルクでのホームステイから始まり、避難民のような生活強いられ、どこに行っても人だらけであった本大会期間へ続き、教皇ミサ、

そして帰国までのものをピックアップしたものでした。

途中、WYD参加者のコメントにも熱が入ってくる場面もあり、報告会は単なる思いつきで終わるのではなく、WYDという巡礼を通して自分たちはどのようなことを感じ、何を学んだのかということをお伝えすることができたと思います。

最後には拝聴者の方に質問をいただく時間もあり、WYDで苦労したことは何か、信仰に関して得られたものは何であったのかといった質問を頂きました。

拝聴者の方々は報告をとっても真剣に聞いてくださって大変有り難かったです。最期に、今回私たちがWYDに参加できたのは多くの方々の協力があったからです。改めてこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

(円山教会青年会 神谷 良文)

設立十五周年

札幌働く人の家

あれこれ！

二ヶ月ほど前「働く人の

家』（月寒教会隣り）のイベントに友達と来ていた青年がいた。その後、たびたび働く青年たちのグループ『100』の活動に彼を誘ってきた。クリスマス晩、彼はひとりで月寒教会のミサに来た。そしてミサ後『働く人の家』が用意したパーティーにも参加してくれた。話しかけると、「なんだかこは来やすいから」と嬉しそうであった。彼は札幌の西の端から地下鉄でやってくる。今年から、毎週水曜日の100の集會に参加するという。



参加者の青年たち

彼は大学を卒業し東京に就職したが、疑問を感じ、思い切って早々に辞めて北海道に戻ってきた。といっても札幌は彼の実家ではない。一人暮らしをしながらただ今失業中である。「正社員として就職するためには、道内にこだわらず積極的に東京での就職を考えるように青年たちを励ましている」。つい先日、北海道若年者就職支援センターの担当者から聞いた言葉を思い出す。青年もそう考えて東京に就職したことだろう。東京での彼の疑問は何だったのか？ ゆっくり話を聞いてみたい。

「家」ができた。この家は現在、個人や団体からのたくさんのお金と、田村神父を代表とする教会内外の多くの賛助会員たちによって経済的にサポートされてきた。また設立当初から青年たちだけの場とせず、幅広く市民運動を含む運動の拠点として位置づけていきたと考えられていた。

『働く人の家』は、もと『100』のために一九七〇年代に兵庫県高砂市に建てられたのが最初である。当時100の青年たちは、自分たちの職場環境を改善していくために、教会内の運動だけに留まっていたとはいえない、劣悪な環境で苦勞を共にしている同僚たちと改善を訴え闘っているという選り抜きの同僚たち。しかし同僚たちと安心して集まれる場は、彼らの職場の中にも寮の中にもなく、教会も信者ではない同僚にとっては居心地が悪かった。そこで教会から独立した形で第一号の『働く人の家』が建設されたのである。

虹の会（視覚障がい者と共歩む会）では、十月二十九日から三〇日に一泊研修会を花川マリア院で実施しました。参加者は視障者十一名、ボランティア会員二十六名の計三十七名でした。視障者主導という形で進め、ボランティアのバックアップもあり、無事に時間通り運ぶことができました。講師の場崎神父様は、日程の都合で当日夕食後の参加となり、それまでは参加者の自己紹介とアイマスクによる実地練習もあり、意義ある研修会のスタートでした。自己紹介は、所属教会と氏名の紹介に止まらず、虹の会との関わりや日々の生活体験の発表などもあり、普段知ることのできないその人の暮らしや性格を理解する上で大変貴重でした。夕食後、講話（テ-

虹の会の研修会開催

マは「いのちのひびき」を行い、引き続き交流会となりました。函館や苫小牧からの会員を迎えて、夕方ふりで会う会員もすっかり打ち解け、時間の経過するのにも忘れる位でした。（話に夢中になり、睡眠をとらず朝を迎えた人もいました）

翌朝も修道院の朝の祈りに参加し、朝食後に引き続き講話があり、テーマに沿った「千の風のうた」のCDを聴きながら、場崎神父様の講話となりました。終戦六十年を迎える本年、司教団のメッセージに沿った平和の話、戦争体験を語り継がなければならないことなど、今必要なことにもふれて講話をしていただきました。昼食前に派遣のミサを以って研修会を終了としました。ミサ中の聖書朗読、共同祈願も視障者によって行われ、共同祈願の中では感動的な場面もありました。参加者は、いつもより暖かい晩秋の中を、紅葉が最後の美しい彩りの中で帰途につきました。



（虹の会 谷口 正）

各地区の動き

北見地区「二日ミサ」による黙想会

北見教会では、十一月二十三日（勤労感謝の日）に、東京大司教区の岡田武夫大司教様を指導者にお招きして一日黙想会を開きました。テーマは『福音宣教』—新たな旅立ちのために—（今年は北見地区が宣教司牧五十周年を迎えた記念すべき年なので）

黙想会は「一日ミサ」の形で進められ、当日のプログラムは、第一部（午前）は、みことばの典礼・説教。第二部（午後）は講話・黙想。そして、第三部（夜）は奉獻から始まる交わり・聖体拝領・派遣。各部とも大勢の参加がありました。岡田大司教様は分かりやすい言葉で丁寧にお話しして下さいました。また合間には、あらかじめお願いしておりました「ゆるしの秘跡」を授けて頂き、ゆったりとしたスケジュールで、参加者は皆落ち着いて自分と向き合うことができました。終了後のささやかな茶会では、司教様と親しくお話ことができました。これは私

たち参加者の大きな喜びとなりました。



岡田大司教様といっしょに

司教様にはお忙しい中、この北の地の小さな教会のために来て下さいましたことに深く感謝致しております。

以下、講話の内容をご紹介します。

第一部「神は全ての人が救われて、真理を深く悟るようになることを望んでおられる」(テモテへの第一の手紙 二―四)

神は全ての人が救われて、真理を知りたいと望んでいる。救われるためには真理を知る必要がある。真理とは、十字架に付けられ、復活したイエス・キリストである。人生には、不条理なこと、困難なこと、また、受け入れがたいこと、許しがたいことなどがあり、私たちはそれらを背負って生きている。しかし、神を信

じることによって救いの恵みが与えられている。イエスは「私は道であり、真理であり、生命である」と言われる。私たちは自分自身の十字架を背負って、イエスの十字架に合わせて、その十字架を支えとして生きているのである。イエスに頼らなければ救われない。ゆえに、人々が救われるよう宣教することが私たちの使命である。

では、イエスを知ることなく生涯を終えた人に対しての教会の考えは？ バチカン公会議において、神を認めない、信じない人をも認めた。それまでの教会では考えられないこと、解放である。神は全ての人を、神のみが知っている方法で、イエスの復活の恵みに与らせることができる。人間は生涯において、聖霊の働きで神に出会うように導かれていく。あなたを創った神はあなた無しにあなたを救えない。神の呼びかけに答えることが大切である。あなたの「はい」なしにあなたを救うことはできないのである。「私の全てをあなたに委ねます」と神に祈ることができたらよい。御心を判断し、自分で

自分の人生を築いていくことが神の望みである。 第二部「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た」(黙示録二―二一)(イザヤ六五―一七参照) 神の望む世界は完成された新しい天と地で、今はまだ、神の望む世界ではない。はじめに神は天地を創られた。人が創られ、全てが調和するように創られた。だが、人は罪を犯し、不調和が生じてきた。人と人、国と国、全て神が創った世界である。その不調和の現実を、神の意図する世界に引き上げるために、イエスは来られたのである。今、自分にしか出来ない事は何か。自分を見つめ直して、世界の完成のために自分自身を役立てることが出来るなら、それはイエスの復活の証しになる。:(黙想): 教皇ベネディクト十六世は「現代社会は荒野のようである。生きるのは難しい」と言われる。砂漠の中にオアシスがあるように、教会は安らぎのあるところである。私たちがこの世界に於いて、神の御心に叶うものとなるように、社会を変えていかなければならない責任を負っている。...:以上

つくっていったほしい。聖なる教会とは聖霊の働く教会、罪が清められる教会である。かつて、イエスの周りには救いを求める人々が集まったように、救いを必要とする人が「あすこなら自分の居場所がある」と思えるような教会にならなければならぬ。開かれた教会とは、悩みを共に分かち合えるところである。 第三部「ゆるしの秘跡について」 罪を告白すること、また悩みや苦しみなど、今の心の状態を神に話すことによつて、神は働く。罪がどうか分からぬ時も話してよい。「罪」とは、「神の御心に背くことを意識して行うこと。神の望みを知つていて行おうとしないこと。してはいけないことをする。しなければならないことをしない」ということである。「世の罪」とは、人類が犯した罪が積み重なって構造的になったものである。私たちはこの世界に於いて、神の御心に叶うものとなるように、社会を変えていかなければならない責任を負っている。...:以上

後日、岡田大司教様は感謝の気持ちを「ゆるしの秘跡を授けることができたことは大きな恵みである。祈り、人との暖かい交わり、そして、自然の息吹に触れること、こういうことは人が、キリスト者として生きていくために、健やかに歩むために必要であり、非常に大切であると痛感いたしました。」と述べておられました。 岡田大司教様、本当にありがとうございました。(黙想会実行委員)

跡を授けることができたことは大きな恵みである。祈り、人との暖かい交わり、そして、自然の息吹に触れること、こういうことは人が、キリスト者として生きていくために、健やかに歩むために必要であり、非常に大切であると痛感いたしました。」と述べておられました。 岡田大司教様、本当にありがとうございました。(黙想会実行委員)



会議風景

苦小牧・室蘭地区 船員司牧 AOS全国担当者会議に参加して

日本カトリック難民移住移動者委員会の一部門である船員奉仕グループAOSの全国会議が去る十月二十五―二十六日に日本カトリック会館で開かれました。委員長の谷大二司教様、ナショナルディレクターのデロシエ神父様(横浜)をはじめ十九名の方々が出席しました。 参加者の活動している港は苦小牧、東京、新潟、横浜、名古屋、神戸、姫路、広島、北九州です。年に一度の会議なので色々な情報

の共有、悩み、喜びを知り、分かち合いをすることが目的でした。 AOS (Apostleship of the Sea) はカトリック教会の世界的な組織であり、船員たちの福利厚生、精神的なケアなどの支援を目的として活動しています。船員たちの間ではステラ・マリス (Stella Maris) の名前前で知られています。海上で働く船員の生活は長い航海によるストレス、事故の危険、家族との連絡もままならないことなど多くの困難があります。AOSメンバーは上記の港で船を訪問し、彼らを歓迎し、地域の情報を提供し、必要な助けを与えています。 会議では以下の4つの点から各地の報告が行われました。いくつかの話題を取り上げると以下のようです。 ○ Strength (力になった

こと)

訪船を通して船員との出会いの喜びを感じられる。ミサをささげることが。AOSが知られていること。ボランティア、センターの存在。

○ Weakness (弱点) 協力者がいないので孤独感を味わう。人材不足・専門知識不足・語学力不足・時間の不足・拠点がない。船員司牧が認知されていないこと。他の仕事との掛け持ちのため時間が不足。

○ Opportunities (好機) 国際的ネットワークとの協力。多様な宗教・文化との出会い。エキシメニカルな視点。海事関係組織との連携協力。地域の人々の協力の必要性。

○ Threats (恐れ) 船員司牧AOSへの無関心。テロ対策の影響。後継者の育成。

その他、稚内港、焼津港の視察報告、台湾の高雄で開催されたICMA(国際キリスト教海事協会) 東アジア地区大会およびAOSアジア地区の会議報告が行われました。

(苦小牧キリスト教船員奉仕会ボランティア・苦小牧新富町教会 柳谷豊)

函館地区 「クリスマス」の集い開催

天気予報では、大雪と予想されていたクリスマス・イヴの前日、二十三日の午後六時、カトリック宮前町教会において、カトリック函館地区宣教司牧評議会(以下、地区宣司評)主催による「クリスマス」の集い」が開催されました。函館地区の信者は勿論のこと、一般市民も含め約三五〇人が集い、藤幼稚園の園児による「キリスト降誕劇」始め、歌、合唱、マンドリン演奏が行われ、爽やかな雰囲気の中に楽しい一時となりました。静かに降る粉雪は、前庭のクリスマス電飾に映り、通路に置かれたキャンドルは優しく

皆を迎え、さらに、外の寒さは聖堂と「クリスマス」の集い」の暖かさをより感じさせていました。

宮前町教会は、老朽化による建替えにあたり、地区信者にとって地理的に市の中心にあり、土地も広く(駐車場)、建物も大きいことから、信仰・行事の中心となる役割を持つて建てられ、二〇〇五年五月に落成

式・献堂式が盛大に行われました。地区宣司評では、市民に新しい教会とクリスマスを知らせることを目的とし「クリスマス」の集い」開催を計画しました。信者一人ひとりが一般市民の方々に声をかけ、誘い合っ

て参加することを目指し、地区宣司評総会以後、役員・広報部が中心となって実行することとなりました。

地区宣司評発足四年目、初めての地区合同クリスマス行事となった「クリスマス」の集い」は、内容の検討と共に、各新聞社・コミュニティラジオ等メディアを活用した広報にも力をいれ準備が進められました。十一月にはオール神父様によるポスターが作成され、新しい宮前町教会をバックにした斬新なデザインは我々の活動に活力を与え、また師自ら函館コミュニティラジオ「FMいるか」に生出演され、PRをして頂きました。感謝です。新聞には、数日前に教会の写真と共に紹介され、当日まで問合せの電話があり、反響と集客に期待が膨らみました。

プログラムについては、各小教区に負担が掛かり過ぎない事を配慮し、且つ、

充実したものが考慮され、従来から各幼稚園で行っていた「キリスト降誕劇」を中心にし、函館地域で活躍しているグループに参加を求め、藤幼稚園年長組園児、姉妹アカペラデュオ「Volty・Subit」、女声合唱団「コー・ポプルス」、マンドリングループ「淳の会」が快く参加協力して下さいました。

しかし、聖堂のコンサートホールとしての使用には、ステージの狭さ・照明不足・高い天井に分散する響きに問題がありました。

宮前町教会信徒の方々により特設ステージが作られ、照明・音響も特設で整えられた聖堂は、聖なる雰囲気の中に、ホールの役割を果たしました。

舞台を一杯に使い、堂々と演技する声とその姿に感動し、集まった人々は暖かい拍手を惜しみなく送っていました。信者でもある、若さあふれる姉妹デュオ「Volty・Subit」に明るく和らぎ、息のあった姉妹の声は時に一つになり、時にハーモニーし楽しさを奏でてくれました。女声合唱団「コー・ポプルス」はクリスマスソングを歌い、中でもヴェルナーのアヴェ・マリアは聖堂にポリホニックな響きが流れ、安らぎを与えてくれました。マンドリングループ「淳の会」は、軽快なロシア民謡を中心に、世界の民謡やクリスマスソング等の楽しく懐かしい曲を聞かせてくれました。快い響きに、皆聞き入っていました。最後に、マンドリンの演奏で参加者全員で「しずけき」を合唱し、明日の「主の降誕祭ミサ」に心の準備を新たにしました。

翌日の新聞には、当日の内容が写真と共に大きく報道され、多くの市民に、教会と「主の降誕」を微力ながら知らせることが出来たような気がしています。計画実行に携わった方々、司祭、マニールの積極的な参加に感謝すると共に、集まって頂いた一人ひとりに感謝します。



子どもたちの聖劇

画実行に携わった方々、司祭、マニールの積極的な参加に感謝すると共に、集まって頂いた一人ひとりに感謝します。

札幌地区 一日研修会開催

昨年十一月三日(水)、札幌地区宣教司牧評議会は司祭、修道者、各小教区の役員など百数十名の参加のもと、一日研修会を北十一条教会で行った。

当日は札幌教区長ベトロ地主敏夫司牧の「宣教する共同体づくりをめざして」と題した一時間半の講演、昼食後、四ブロックに分かれて①信徒の役割②信徒の協働体制と司祭の関係③「私の教会」という意識からの脱皮とブロックなどについて二時間ほど話し合った。その後、全体で各ブロックの討議内容の発表と意見交換をして閉会した。

今回の研修会は、十月二日の札幌地区使徒職大会を受けて、各小教区の役員などを対象により具体的に話し合うことがねらいでした。司教様の講演内容は一

画実行に携わった方々、司祭、マニールの積極的な参加に感謝すると共に、集まって頂いた一人ひとりに感謝します。

(函館地区宣司評 会長 中井 高司)

面を参照頂き、ここではプロックでの討議内容を述べさせていただき、各プロックでの討議内容については紙面の都合上割愛し、全体会での各プロックの報告で置き換えたいと思います。

③ 財政の一本化、地区の一本化はむずかしい。小樽市の二つの教会を一つにしては？しかし、福音化していくことを考えると、教会は不足するのではないか。聖霊の受け皿をつくる必要がある。

④ 福音宣教は地域や職場でありのままの信仰体験を伝えていくことが必要ではないか。

⑤ 信徒は司祭に何を求めているか。司祭に頼っているが、信徒はこの依存心を断ち切ることはないか。

⑥ 司教様のプロックの現状は分からないと言う回答に不安を感じる。信徒の意識改革と合わせて、司教の意識改革を、そして司教様の全体的把握・指導を望む

北プロックは初めてのプロック会議となる。

① 東プロックは三ヶ月に一度、小教区の問題やプロックの問題を話し合ってきた。大麻教会のシックハウスについても話し合ってきた。未だ使用できない状態である。今後、プロック、地区、教区に協力を呼びかけていきたい。

② 集会祭儀、葬儀などプロック、地区に目を向けた取り組みが必要である。また、地区全体の財政一本化を目指す話し合いを進める必要がある。

③ 北二十六条教会と北十一条会では教会学校の交流をしてきた。これからもやっていく。具体的な協力を積み上げていきたい。

④ このような研修会や会議に青年も参加させて欲しい。青年同士の交流にもなる。

⑤ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑥ 司祭は司祭に何を求めているか。司祭に頼っているが、信徒はこの依存心を断ち切ることはないか。

⑦ 五月に西プロックの花見をする。青年会を再開する。

⑧ 隣りの教会と連携をしていく。隣りの教会は知らないというのはカトリック的ではない。

⑨ 北二十六条教会と北十一条会では教会学校の交流をしてきた。これからもやっていく。具体的な協力を積み上げていきたい。

⑩ 青年も参加させて欲しい。青年同士の交流にもなる。

⑪ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑫ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑬ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑭ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑮ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑯ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑰ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑱ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑲ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

⑳ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉑ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉒ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉓ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉔ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉕ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉖ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉗ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉘ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉙ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

㉚ 現状認識ができた。十年後、二十年後を考え、四プロックを一つと考えることもあるのではないかと。司祭は信徒によって育てられる。謙っていけば、前進していただくとうと述べ

各地区の行事予定

教 区	3月21日(火)	助祭叙階式、祭壇奉仕者選任式	(北1条教会)
	4月11日(火)	聖香油ミサ	(北1条教会)
札幌地区	2月1日(水)	地区宣司評事務局会議	(司教館)
	19日(日)	第90回幹事会	(聖ベネディクトハウス)
	25日(土)	テゼの祈り	(手稲教会)
	26日(日)	第37回評議会	(月寒教会)
	3月5日(日)	地区財政委員会	(聖ベネディクトハウス)
	8日(水)	地区宣司評事務局会議	(司教館)
	19日(日)	第91回幹事会	(聖ベネディクトハウス)
函館地区	3月27日(月)～29日(水)	四旬節共同回心式	(元町・宮前町・湯川教会)
旭川地区	2月8日(水)～9日(木)	旭川地区司祭会議	(カトリックセンター)
	3月1日(水)	旭川市内合同灰の式	
	22日(水)～23日(木)	旭川地区司祭会議	(カトリックセンター)
	4月13日(木)～15日(土)	旭川市内合同聖週間の典礼	(旭川5条教会)
	16日(日)	旭川市内合同復活祭	(旭川5条教会)
	19日(水)～20日(木)	旭川地区司祭会議	(カトリックセンター)
苫小牧地区	2月12日(日)	表町・新富町合同ミサ	(表町教会)
		統合に向けての合同班会議	(ク)
	19日(日)	仮称「カトリック苫小牧教会」役員予定者会議	(ク)
		苫小牧キリスト教船員奉仕会2006年度総会	(シーフェアラーズセンター)
	3月3日(金)	世界女性祈祷日「時のしるし」	
		南アフリカ共和国からのメッセージ	(日本キリスト遠浅教会)
北見地区	2月11日(土)	宣教司牧評議会	
	2月	オホーツク冬期学校	

最後に近藤地区長は、信

（札幌宣司評事務局 局長 澤田）

映画「ナルニア国物語」

三月四日から全国ロードショー

「ナルニア国物語」は、イギリス作家C・S・ルイスの七巻からなるファンタジー作品で、キリスト教を彼なりの方法で子供たちに伝えるために書いた作品でもあります。今回は第一章の「ライオンと魔女」で第二次世界大戦下、田舎に疎開する四人の子どもたちが潜り込んだ世界での体験を通し、子どもたちがどのようにして神と出会うのか、是非ご覧いただきたいと思います。(編集子)

【 報 告 】

神様の下で安らかに憩われることをお祈り下さい



メリノール宣教会司祭

ロイヤル・アッセンハイマー神父
一九三八年四月六日 生まれ

一九六五年六月十二日 司祭叙階
一九七〇年 札幌教区夕張教会、苦小牧旭町教会、

静内教会の主任司祭を歴任
一九七六年 札幌市内でアルコール依存症者回復センターを開設

一九八三年 東京にて依存症者回復プログラムに取り組む

一九八四年 日本最初の薬物依存症者回復センター開設に従事する

二〇〇六年一月五日 帰天 享年六十七歳

十勝カルメル会 幼きイエズス修道院長

溝口 温子 修道院長
一九二九年九月十二日 東京に生まれる

一九五八年七月十五日 東京三位一体修道院に入会

一九六〇年十二月二十四日 初誓願

一九六二年十一月十四日 北海道月形修道院創立に参加

一九七七年十一月 月形二代目修道院長に就任

一九八一年 北海道伊達に移転

一九九〇年十一月十四日 十勝カルメル会幼きイエズス修道院創立、修院長に就任

二〇〇五年十二月二十日 帰天、修道生活四十七年 享年七十六歳

マリアの宣教師フランシスコ修道会 札幌第一修道院

シモーヌ・デシエール修道女
一九一九年三月二十三日 生まれ

一九四六年三月十五日 修道会入会

一九四九年一月十一日 終日

一九五一年九月十七日 終生誓願宣立

二〇〇五年十二月二十日 帰天、修道生活五十九年 享年七十六歳



教区の風

神様の計画

— イエスはわたしたちを満たします —

ある神父様の講演を聞いてから、心の中に残っていることがある。この世は神様の計画のうちであり、神様の摂理がいつも働いているということである。神様にはわたしたちには分からない計画があり、その生活には神様の摂理がいつも働いています。わたしたちには欲や煩惱があります。もう少しお金があったら、もう少し△△が欲しい、もう少し... etc.

しかし、私たちの心は満たされるでしょうか？そして、今これをやれるといいのにと、頻りに耳にする段々信徒が減っていくとか、司祭や修道者の召命数が少なくなってきたりとか、確かに心配ですが、それは我々人間の時間や物差しで考えているような気がします。また、物質的に満たされている現代社会に慣れた

てしまったわたしたちにとつて、これからは段々と心的なものが求められてくると思われ、実際そのような状態に社会はなってきたかと思いません。ですから、信徒数や司祭、修道者の召命数の減少が続いてきたら、神様が必要と考えた時に、それを満たす時期が訪れると信じています。神様の計画と、イエスの御旨を信じて、日々わたしたちが成すべきことを我々は行うべきであり、自分の心や考えをイエス様で満たすべきです。新しい年がスタートしました。これを良い機会に、小さなことでもまず自分が出来る事からはじめてみましょう。イエス様で心を満たし、家族や友達、職場の仲間など隣人と話し合うのもいいことではないでしょうか。イエス様で満たされることは至福で最高なことではないでしょうか。(札幌地区 一信徒より)

【 編 集 後 記 】

諸事情により、教区ニュース三号の発行が二週間ほど遅れましたこと、始めにお詫び申し上げます。

新しい年を迎え、そして新たな年度を迎えるにあたり、司祭・修道者・信徒が一体となって、神様の御旨に従って、諸問題に取り組んでいくと願っています。広報と致しまして、来年度から、教区ウェブページの充実と、教区ニュースの発行間隔をできるだけ短くするように努力し、皆様に様々な情報を、出来るだけ速やかにお届けしていきたいと思っています。

それには、信徒の皆様始め各神父様や修道士(女)の皆様のご協力に頼らざるを得ません。教区の皆様にお知らせした方がよいなど思われる情報をドシドシお寄せ頂ければ幸いです。(編集子)

